

マスクの機能を考えてみる

教育委員 橋本 和明

新型コロナウイルスが再び猛威を振っています。しかし、第一波の時と比べると、私たちは比較的事態を冷静に受け止めているのではないのでしょうか。言ってみれば、コロナの正しい怖がり方を身に付けてきたと考えてもいいかもしれません。

ところで、外で見かける人がほぼ 100%に近いほどマスクを着用しています。その光景はつい1年前の様子とはずいぶん変わってきましたが、もう違和感がなく当たり前であると思えます。ただ、このマスクについてよくよく考えてみると、着用する人によって、マスクの機能はさまざまです。つまり、そこにはマスクがいろんな機能を持っていると言えるのです。

まずもっともわかりやすいのは、マスクが「守る」という機能を持っているということです。今で言うと、まさに新型コロナウイルスから身を守るためにマスクを着用しているのですが、コロナが感染する前でも、インフルエンザの予防や冷たい風から防御するといったように、わが身を守るためにマスクを活用しています。

次にマスクには、「隠す」という機能があると思います。考えてもわかるように、マスクは顔の半分以上を覆います。そのため、その人の目や額以外はマスクの下に隠れてしまい、顔の輪郭や構造はもとより、表情すらわからなくなったりします。簡単な例をあげれば、近くのコンビニに行こうとするが、化粧をするのも面倒なので、マスクをして出かける、悪いことをする際に顔がバレないようにマスクをするというのがこれに当たります。さらに言えば、あえてマスクをすることで自分の中の気持ちを相手に気づかれないようにするという人もおられます。対人関係に不安感が大きい場合など、マスクをしなければ外出ができず、マスクが何より自分を守ってくれるものと受け止められています。この例などは、マスクが「隠す」という機能だけではなく、「守る」という機能も同時に働いていると言えるでしょう。

最後に、マスクには「避ける」という機能もあると思うのです。マスクをしているとこちらは話しにくいし、マスクをしている相手には話しかけにくいものです。今回のコロナでは三密を避けるというルールがありますが、それを象徴するかのようにはマスクが存在していると言っても過言ではありません。つまり、マスクにはどこか人との距離をとらせてしまう、「避ける」という機能が自然と働いてしまいやすいのです。

以上のように、マスクには「守る」「隠す」「避ける」という機能があると私は考えています。特に、コロナの時代を生きるためには必要な機能ももちろんありますが、逆に、マスクをすることで人間関係に障壁を作ることだってないとは言えません。ここで考えてほしいことは、このようなマスクの機能があることをしっかり理解し、マスクをしていてもマスクの下にあるものに思いを馳(は)せようとしていくことが必要だということです。例えば、マスクで覆われていて顔の表情がなかなか読み取れませんが、それでも目の動きやその他のしぐさから、相手がどのような気持ちでいるのかをわかろうとすること。もし劣等感や不安感で押しつぶされそうな気持ちがマスクの下に読み取れたなら、マスクはその人を守る役割にもなるので、侵襲的にならず、相手が安全だと感じる距離をとりながらマスクを隔てて優しく語りかけること。そういったことが続けられると、仮にマスクをし

ていても、心が自ずと開き、しっかりつながっていけるのではないのでしょうか。